

# 地球時代の選択

## アフリカに移住した家族

### 吉村 峰子 (南アフリカ・ダーバン)



第59回

## コロナの中の嬉しい笑顔

この『地球時代の選択肢』でも時折登場するわが社のプレシャスを覚えていらっしゃいますか？コロナの現状はいまだに厳しいものがありますが、先日、とても嬉しいことがあったのでここに書き残しておこうと思います。

プレシャスが、下働きのお掃除専門として働き始めたのは、私たちが移住した2003年のことでした。生真面目で、仕事が丁寧。亡夫とすぐに彼女の可能性に気がつきました。

それから、あっという間に18年が経ちました。この間、彼女の婚約者が事故死したり、私の夫も不慮の事故で他界したり、両親を南アに呼んだにもつかのま、母が亡くなり、父が帰国し…。彼女とは、そんな出来事を一緒に乗り越えてきた気がします。

今まで彼女の家族から3人が会社のスタッフになってもらいました。ただ、彼女の弟が庭師として働いていたのですが、彼は病気で失明してしまい、現在は働いていません。

プレシャスのすごさはたくさんあるのですが、一番はその責任感の強さです。我が家の地域のゴミの収集は月曜日。月曜が祝日だと彼女からのメッセージが朝いちばんで飛んできます。

「今日はゴミの収集日だから、黒の一般ごみの袋と透明の資源ごみの袋を8時までに門の外へ出してください」

南アでスタッフからこんな心配をしてもらってそう多くはないはず、と自負しています。

早くから彼女の勤勉性、几帳面、且つ物おじしない性格を見抜いていた亡夫は、彼女に運転を教えました。実際、路上で運転できるようになってからは、試験用に教習所にも通ってもらいました。愉快だったのは、その頃、息子も運転免許を取ろうとしていて、二人で競うように試験を受けていたことです。二人とも一回目不合格、二回目で合格しました。

途上国で運転免許を持つ、ということは雇用の可能性を大きく広げます。私たちのささやかなる自慢は、エチオピアに赴任し



ていた際、夜警をしていた青年に運転免許を習得させて運転手として独立させたことです。何と現在では、国際協力機構（JICA）のエチオピア事務所の運転手のチーフとして活躍しています。

さて、話はプレシャスに戻しましょう。私はかつて、日本のテレビのコーディネイトの仕事で、いろいろな番組に関わったことがあります。ある日、「日本語が少し出来て日本の料理を学びたい南ア人を推薦してもらえないだろうか」とあるテレビ番組に頼まれました。ここで起こったことは今回は言及しませんが、最終的に彼女が50余名の応募者から一番最初に選ばれて日本へ行きました。

彼女が修行したのは、ラーメン激戦区である宇都宮の有名なラーメン店。すべて手作りがモットーの経営者ご夫妻は、ラーメンに添える漬物の大根まで畑で自ら栽培する本格的なお店でした。その女将に可愛がられ、ある時期は南アでラーメン店を開く可能性まで出ていたのです。ただこの計画は紆余曲折あり、現在保留中です。

いま、プレシャスはお弁当部門の責任者です。自分の下に2名のスタッフを抱え通勤には会社の車を使っています。彼女たちが車で会社に来られるから、このお弁当事業が継続できているのです。もしもスタッフがミニバスというアフリカでは一般的な乗り合いタクシーをつかっていたら、お弁当事業の再開は不可能だったでしょう。感染のリスクがあまりにも大きいからです。

さて、先日、何が嬉しかったかというと、彼女が朝、私にこう言ったのです。

「マダム、おばあちゃんたちが心から感謝していました。本当にありがとうございます」

これ、最初、何のことだか分からなかったのです。

南アでは今年の6月より、60歳以上を始めとして、コロナのワクチン接種が始まりました。9月末現在、国民であろうが、外国人であろうが、さらに不法に南アに滞在していようが、身分証明さえできれば、予約なしでワクチンの接種が受けられます。が、会場はかなり数が限られていて、車がなかったり田舎に住むあまり裕福でない高齢者にはそう気軽に会場に足を運べません。

本人はすっかり忘れていたのですが、数週間前に、彼女に「会社の車を使って、近所の高齢者をワクチンの会場に連れて行ってあげてね」と頼んでいたのです。

私は、南アで雇用を増やすのであれば何でもするし、これからもしようと思っています。が、私のしていることはビジネスなので、ボランティアではありません。ただ、ビジネス、と言っても、南アでこんな採算度外視して作っているお弁当事業だけではどう頑張っても、スタッフの賃金や健康保険代を支払うくらいにしかありません。



でも、この顔も知らないおばあちゃんたちが、プレシャスの運転する車でコロナのワクチンを接種できた、という事実がもうすべてです。

彼女との出会いからすべての出来事が走馬灯のように浮かんできました。にこにこ顔で家族に自慢した、というおばあちゃんたち。しみじみ嬉しいではないですか。

私たちが18年前に始めた事業の結果がこんなに嬉しいことに繋がっている。もうこれだけで十分です。我ながら、ああ、いい人生だなあ、と久しぶりに梅酒をオンザロックで楽しみました。

